



今回は、SGH・英語力の伸長（TOEFL）に係る情報をお伝えします。

◇ SGHが目指すグローバル人材とTOEFL（トーフル）：受信型から発信型の英語へ

■TOEFLとは？

Test of English as a Foreign Languageの略。1964年に英語を母国語としない人々の英語コミュニケーション能力を測るテストとして、米国非営利教育団体であるEducational Testing Service(ETS)により開発されました。大学のキャンパスや教室といった**実生活でのコミュニケーションに必要な、「読む」「聞く」「話す」「書く」の4つの技能を総合的に測定するもの**です。

■TOEFLが目指す力は？

日常会話の習得ではなく、**将来、世界を舞台に活躍できるグローバル人材に必須の議論・交渉ができる英語力**

■テストの種類

- ・TOEFL iBT(Internet-Based Testing): 4技能における英語運用能力（「聞く」「読む」「書く」「話す」）を世界基準で測定するコンピュータベースの公式テスト
- ・TOEFL ITP: テストはTOEFLテスト作成元であるEducational Testing Service(ETS)が提供する団体向けテストプログラムです。
- ・TOEFL Junior: 「読む」「書く」の2技能を測定するペーパーベースの中高生版
- ・TOEFL Junior Comprehensive: **4技能を測定するコンピュータベースのTOEFL iBTの中高生版**

■なぜ、TOEFLなのか？

- ・**大学入試の変化** ⇒センター試験の総単語数が1.5倍になるなど、素早く全体を読み取る内容に変化。**4技能が求められる入試に変わり、TOEFL iBTテストの導入も検討されている。**
- ・**海外留学の支援・促進** ⇒近年留学希望者は増加傾向にあり、留学支援の動きも広がっている。
- ・**英語での授業の開始** ⇒2013年実施の学習指導要領から、「英語で授業することを基本とすること」となり、英語教員にTOEFL iBTテスト80点以上を求めるという基準も議論されている。

◇ 本校の取組から

■ TOEFL ITP 受検：10月17日（金）2年生42名受検

■ TOEFL Junior Comprehensive 受検：11月8日（土）・9日（日）〔コンピュータ室〕

2年生 39名が3グループに分かれて受検。テストの構成は、Reading&Listening の受検が約80分、Speaking&Writing の受検が約60分。この他にインストラクションやマイクチェックの時間も。



生徒の感想

- ・英語は解ける、書けるだけでなく、**聞いて分かる・話せるという力を付けたい**と思った。
- ・日頃から英語を意識して**表現の仕方を身に付けたい**と思った。
- ・スピーキングが全然できなかった。**話す力を上げることを意識して質の高いものにしていきたい。**
- ・スピーキングやライティングで自分が言いたいと思うようになかなか単語が出てこなかったし、**実践力が付いていないことがよく分かった。**
- ・文法をどれだけ勉強しても話せるようにならないので、**実用的な英語力を付けるためには、音読したり会話したり声に出さないといけな**と思いました。
- ・授業での理由を付けて話す練習が、ライティングの論理的な説明に役だっていると感じました。
- ・外国人と会話するのにはもっと**リスニングとスピーキングの力を付けないといけな**いと思った。
- ・より**生活や仕事などの将来使える英語力が問われた。**
- ・点を取るためではなく、**英語ができるようになるために英語を勉強するという意識で努力していきたい。**
- ・**話すとなると言葉が出てこなかった。**リスニングに関しても、**もっと英語に慣れる必要がある**と感じた。